

報 告

第42回粘土科学討論会報告

第42回粘土科学討論会は、1998年10月6日(火)から8日(木)までの3日間、群馬県桐生市市民文化会館を中心に、関係委員各位、共催各学会、群馬大学科学技術振興会はじめ関係機関の協力をえて、150名以上の参加者を迎えて開催された。特別講演が2題、シンポジウムが4人の演者のレポートで行われ、一般講演等は口頭が42件、ポスターが44件で総数86件の発表があり、それぞれ活発な討論が行われた。今回から口頭発表もポスター掲示することが始められたが、初回のせい、この試みは徹底しなかったようだ。

大会第1日目の6日は、桐生市市民文化会館スカイホールで、受け付け開始に続いて、一般講演の一部が行われ、豊順洋行の近藤三二氏による「ベントナイト・工業技術へのアプローチ」及び佐藤満雄会長の退任に伴う「粘土科学におけるコンピュータモデリング」の2つの特別講演が行われた。続いて「環境と粘土」というテーマのシンポジウムが開催され、慶応大学理工学部の鹿園直建氏による「珪酸塩鉱物と天然水(地下水・熱水)の相互作用」、大成建設の末岡 徹氏による「地質と環境」、無機材料研究所の中沢広基氏による「粘土/天然有機物多孔体-発泡ポリスチレン代替の試み」、新潟大学工学部の「粘土による有害科学物質の除去」の4報告の後、東京大学・兵庫教育大学の湊 秀雄氏によって「都市廃さい最終処分場外壁材質としての粘土等の活用実施例」

についてのコメントが出された。夜は場所を国際きのこ会館に移して、特別講演とシンポジウムの演者などを招いて懇親会が盛大に行われた。

第2日目は、前日に引き続いて一般講演の口頭発表の残り、ポスター発表および本年度の総会が行われた。総会では、会長・評議員選挙の結果が報告され、新旧役員が交代し、鹿児島大学理学部の富田克利会員が新会長に就任した。また、長沢敬之助、本多朔郎、宇田川重和、喜田大三の4元会長が名誉会員に推挙された。さらに、本年度の日本粘土学会各賞の授与式が行われ、旧会長より東京工業大学の岡田 清会員に対して学会賞が、東京ガス(株)の里川重夫会員に対して奨励賞が、中京短期大学の金岡繁人会員に対して功績賞が、また(株)テルナイトに対して技術賞がそれぞれ贈られた。

第3日は、群馬県笠懸町の岩宿旧石器遺跡と安中市の豊順鉱業(株)応用粘土科学研究所とベントナイト露天掘り現場などの見学会が開催された。参加者は多くはなかったが、みな熱心に見学し、活発に質問などをしていった。

おわりにこの場をかりて、ご多忙な中にありながら特別講演やシンポジウムの演者を引き受けて頂いた諸氏、ならびにご協力頂いた関係各位に感謝いたします。

(北川靖夫・大谷朝男)



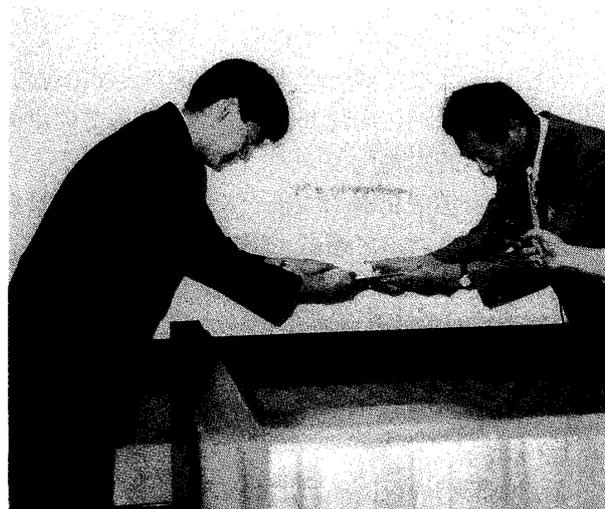
佐藤満雄旧会長の挨拶



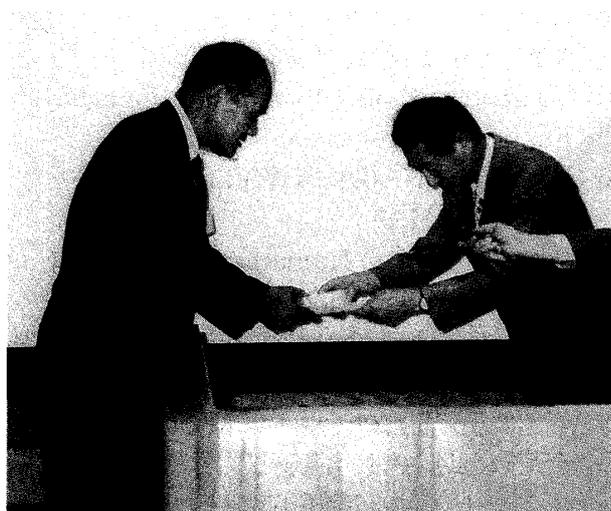
富田克利新会長の挨拶



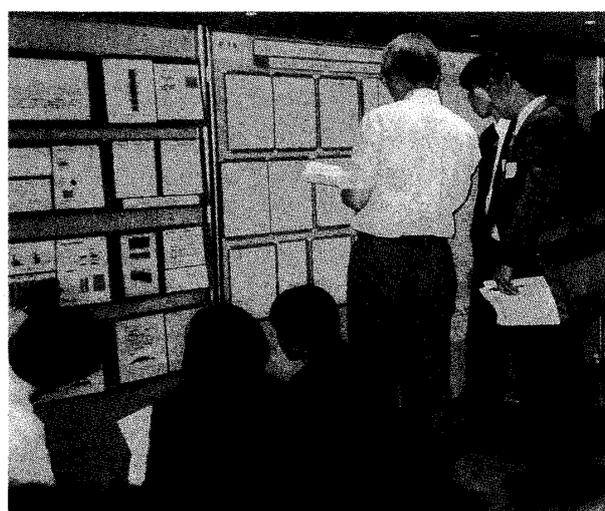
岡田 清会員・学会賞



里川重夫会員・奨励賞



金岡繁人会員・功労賞



ポスターセッション会場